

ごあいさつ

日本藻類学会会長 原 慶明

昨年2年には会則の整備や学会創立50周年の記念事業および第3回アジア太平洋藻類学フォーラムと日本藻類学会第26回大会をAlgae2002国際合同会議(2002年7月:つくば)として開催するなど、手に余る行事を大過なく遂行できましたことは会員各位のご協力なくしては考えられないことでした。引き続き平成15・16年度の会長に選挙されましたこと、光栄に存じますが、更なる難局が待ち受けていること必定です。公私とも会長をお引き受けできる状態ではありませんが、会員各位のこれまで以上のご協力をいただくと確信いたしまして、任期を全うする所存です。

会長選挙後に会員有志の方々から「学会活性化ワーキング・グループ」設立の提案をいただきました。本会は日本学術振興会の刊行助成金なくしては学会誌の円滑な発刊はできません。しかし、最近本会と同規模の学会で刊行助成金が打ち切られ、会の運営に大きな障害をきたしています。そのような状況を踏まえ持ち回り評議員会で、学会活性化ワーキング・グループの設立をお認めいただき、現在すでに活動を開始しております。「明日はわが身」にならぬように、かつ弱体学会事務局へのワーキング・グループの方々のお心遣いに対し、幹事ともども感謝いたしております。

Algae2002直後、2009年に開催予定の第9回国際藻類学会議(IPC9)を日本に誘致してはどうか、とのお誘いを受けました。立候補の受付期限が迫っておりましたので、IPC8の申請にご尽力いただいた渡辺信(国立環境研究所)、川井浩史(神戸大学)両氏および数名の会員の方々のご意見を伺い、持ち回り評議員会の議を経て立候補の決断をいたしました。現在先方は審議中で、まもなく裁決結果が送られてくることになっております。採否に関わらず、これから日本藻類学会および会員が国際的なアクティビティーにさらに積極的に参画することが我々の重要課題の一つです。もし採択された場合には開催資金の工面の他に2009年を一つの区切りとして、本会の組織・運営の長期展望を描かなければなりません。これらも本会としては大仕事と覚悟をしております。

2期目の学会事務局を立ち上げるの際し、わざわざ入会していただき会計幹事をお引き受けくださった半沢直人氏にはこれ以上のご無理を強いることができませんでした。これまでのご労苦に対し学会を代表して感謝申し上げたいと存じます。なお、今期の会計幹事は横山亜紀子(山形大学)氏にお願いいたしました。会員各位の強力なご支持をいただき、本会の発展に些少でも寄与できることを期して、ご挨拶いたします。

平成15年1月
(山形大・理・生)